

まご育てのポイント



わが子を育てるパパ・ママにとって、祖父母のサポートはとても心強いことです。育児環境の変化に伴い、育児の考え方や方法が大きく様変わりしています。祖父母世代のみなさんが、今の子育てについて理解を深め、パパ・ママをサポートしていただくと幸いです。

❀ 大切なお孫さんに安全な環境を ❀

小さなお子さんと過ごすなかで、予想外のことで生命に係わる大きな事故につながる場合があります。そうなる前にお孫さんの目線に合わせて家の中を点検し環境を整えるなどして、事故を未然に防ぎましょう。

＜リビングや寝室＞

- 小さなおもちゃ、医薬品やコイン、化粧品、ボタン電池等の危険なものは与えない。
(直径39mm以下の円に入る大きさのものは誤飲のおそれがあります)
- 柔らかい布団やタオル、ぬいぐるみなどで口がふさがらないように注意する。



＜キッチンやダイニング＞

- 炊飯器やポット、熱い食品等は手の届かない所に置く。
- テーブルクロスははずす。



＜お風呂場など＞

- 浴槽や洗濯機の水は抜いておく。
- 洗濯機に入らないようにロックをかける。



❀ 子育てに関する相談のお問い合わせ ❀

保健センターでは、子育てに関する不安や悩みをお聞きし、地域の専門機関と連携し、一人ひとりにあった情報やサービス等をご提案しています。

市外局番 (059)

中央保健センター ☎229-3164	河芸保健センター ☎245-1212	美里保健センター ☎279-8128	香良洲保健センター ☎292-4183	白山保健センター ☎262-7294
久居保健センター ☎255-8864	芸濃保健センター ☎266-2520	安濃保健センター ☎268-5800	一志保健センター ☎295-0112	美杉保健センター ☎272-8089

❁ ここが変わった！子育て比較 ❁

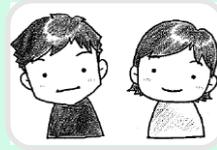
時代の変化とともに子育てを取り巻く情報も変化・進歩するため、祖父母世代が育児をしていた頃には当たり前だったことでも、今では推奨されないこともあります。

今と当時の違いをまとめましたので、これからの孫育てや、パパ・ママへのアドバイスにご活用ください。

パパ・ママが生まれた頃



今



だっこ・抱きぐせ

「抱きぐせ」をつけると、赤ちゃんはだっこを求めて泣くようになっていきました。

「甘やかしている」と言われることも…

「だっこ」は自己肯定感・人への信頼感が育つなど、心の安定につながります。抱きぐせは気にせず、たくさん「だっこ」してあげましょう。

うつぶせ寝

頭の形がよくなる、寝つきがよくなるといわれていました。

乳幼児突然死症候群（SIDS）から赤ちゃんを守るため、医師から指示されている場合以外は、あおむけで寝かせるようにしましょう。

スキンケア

おむつを替えた後やお風呂上りにベビーパウダーをつけていました。



ベビーパウダーをつけすぎると毛穴をふさぎ、かぶれることがあります。近年は肌の状態にあわせて、ベビークリームやローション等と使い分けがされています。

水分摂取

お風呂上りや水分補給に白湯を飲ませていました。

離乳食が始まる前の水分補給には母乳かミルクをあげます。

離乳食

離乳食の準備段階として果汁やスープをスプーンであげていました。（味・スプーン慣らしのため）

離乳前に果汁やスープをあげる必要はありません。離乳食は5・6か月頃に、お粥から始めます。

日光浴

日光浴をしないとくる病（ビタミンD不足）になると言われていました。

赤ちゃんの皮膚は紫外線の影響を受けやすいと考えられており、赤ちゃんを外気や温度差に慣らす「外気浴」が勧められています。

虫歯予防

大人が使った箸やスプーンを使って子どもに与えていました。

大人が使った箸やスプーンの共用は、虫歯菌も一緒に与えることになるため避けましょう。

チャイルドシート

大人が抱っこをして、車にのっていました。

6歳未満の幼児のチャイルドシート着用が法律で義務付けられています。また、車にのせたまま離れないようにしましょう。